

「センス・オブ・ワンダーを全開にして」

牧師 戸井田栄

「主の御名を賛美せよ。

主の御名はひとり高く、威光は天地に満ちている。」(詩 148:13)

7月、男鹿教会で奉仕させて戴いたとき、教会文庫に「センス・オブ・ワンダー」(レイチェル・カーソン著・新潮社)を発見した。以前から読みたかった本で、60頁ほどだったので早速ネットで購入した。小さい甥のロジャーと一緒に、夜の海辺の風に当たり、波の音を聞き、波に向かうカニを見、そこに不思議な興奮を味わった。こう書き出して、コケ、夜空、流れる雲、鳥や花など自然界の驚くべき営みを綴っていく。そして、その色や形、匂いや音色に感激する感性を耕すことが、事実をうのみにし、名前を多く覚えるよりも大切であり、そのようにして得た知識がしっかり身につくと述べる。そして「人間を超えた存在を認識し、おそれ、驚嘆する感性をはぐくみ強めていくことには、どのような意義があるのでしょうか。」と自問し、「かならずや、生きていることへの新たな喜びへ通ずる小道を見つけ出すことができると信じます。」と答えている。



教会周辺も驚きで満ちている。鳥の音、3匹のリス、クルミ、数々の花、ハチの巣、クモの円網、蟻、トンボ、もしかしたらフクロウがいるかもしれない。また、私に大きな驚きを与えたものにアンモナイトがある。昔、パソコンにアンモナイトの画像を取り込み、そのらせんを調べると、 $r=ke^{a\theta}$ という方程式で、 k, a のある値に対してピッタリ一致したのである。自然の背後に数学が隠されている！この発見で私は創造の信仰を回復できたのである。

上掲の詩編の記者は、“主の御名を賛美せよ。その威光は天地に満ちている”と謳い、“海に住む竜、火、山々、野の獣、諸国の民”に呼び掛ける。センス・オブ・ワンダーは私たちが創造主への賛美へと導く。そして、最も私たちが驚かすは、イエス・キリストである。ここに秘められた奥義ゆえにこの方こそ最高の賛美に相応しいお方である。

高浪晋一先生をお迎えし、10月15日は「賛美の集い」、16日は礼拝奨励において、賛美の心と術を学ぶチャンスが与えられた。センス・オブ・ワンダーを全開にし、賛美するために創造された者として、礼拝賛美において、あるいはデボーションにおいて、主に向かって喜び歌いつつ歩む者とさせていただきます。